



発表



発表をもとに、他のグループのメンバーが評価を行いました。評価結果は次ページに記載しています。

<評価項目>

- ①交通利便性
アクセスの利便性や周囲の状況を踏まえた配置場所であるかを評価。
- ②サービスや機能
当該施設で提供するサービスや機能評価。
- ③面積削減率
現状の延床面積から、どの程度削減できるかを評価。
- ④コストの削減率
検討した施設の面積から修繕・更新費用を算出し、総管理計画の試算と比較し評価。
- ⑤災害リスク
被災の恐れが無い配置か、または必要な災害対策が考えられているかを評価。
- ⑥多様性
利用する用途や世代が幅広く使用可能かを評価。
- ⑦持続可能性
社会状況を踏まえて将来に渡って持続可能な施設や配置が考えられているかを評価。
- ⑧広域利用の可能性
地区や市町をまたいで広域的な利用も可能かを評価。
- ⑨跡地利用
跡地の有効活用について考えられているかを評価。



再配置案

❖ ツーブロック

A案 再配置の時期:2050年頃
緒川小学校・北部中学校
緒川コミュニティセンター・緒川児童館

B案 再配置の時期:2060年頃
卯ノ里小学校・西部中学校
卯ノ里コミュニティセンター・緒川新田児童館

❖ チーム2

A案 再配置の時期:2035年頃
森岡小学校・森岡児童館
森岡保育園・森岡西保育園



❖ チーム3

A案 再配置の時期:2035年頃
森岡小学校・森岡児童館
森岡コミュニティセンター・森岡老人憩の家
森岡保育園・森岡西保育園

B案 再配置の時期:2040年頃
役場庁舎・文化センター
勤労福祉会館・福祉センター・保健センター

❖ 小松教授の講評・アドバイス ❖

- PPP/PFI について、積極的に考える必要がある。
- 公有地は、売ってしまうと二度と返ってこない。災害が起きた時に、土地の必要性に気付くことが多い。
- 人口減少や少子高齢化等、社会的な変化を踏まえて考え、将来のイメージをすることが大切。
- 稼働率について、高ければ使いたい人が使えないという問題、同じ人や団体が使っているという問題があり得ることから、高過ぎても、低過ぎても良くない。
- 『交流』という言葉は便利だが、人によって考え方が違う。例えば、人同士が交わっているのが交流だと言う人がいるが、一緒の場所(空間)に居合わせているだけでもそれだけで価値がある。
- 公用施設を集約・複合化するためには、利用する人たちの寛容性が無いと多様性は実現できない。
- 住民との合意形成を、どのように図るかを考える必要がある。
- 複合化する施設を実現するためのプロセスを考えることが必要である。
- 総論は賛成、各論反対は日本中どこでもある。みんなが認識しておかないといけないことは、『来年やる話』ということではない。少なくとも10年単位で、住民との合意形成をする必要がある。

第6回 プロジェクト チームの様子

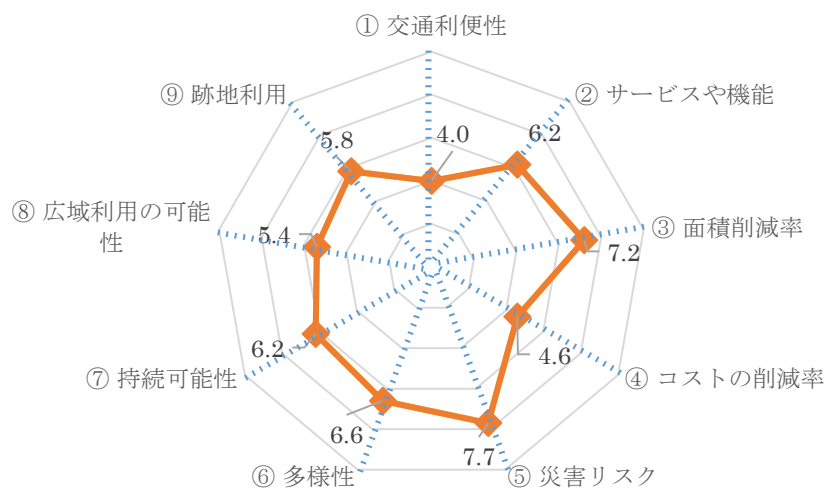


～公共施設再配置「案」を作る目的(再)～

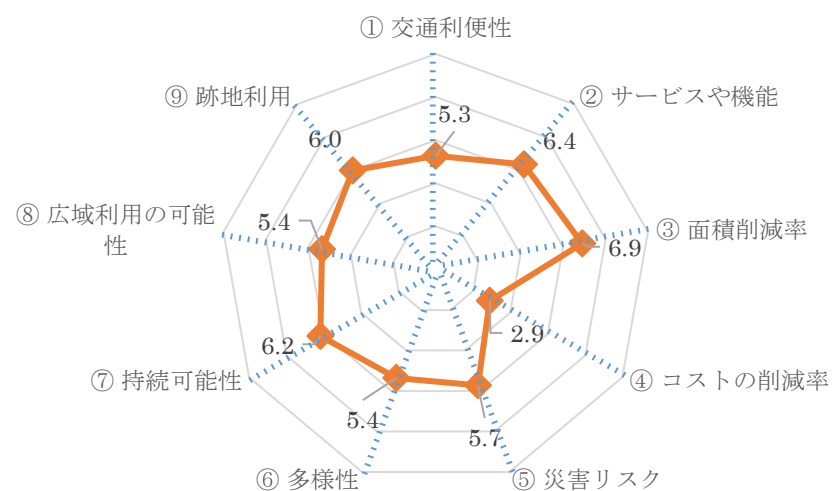
将来にわたって、持続可能な施設のあり方を考えるため、公共施設再配置計画を策定する予定です。再配置計画を策定するために、職員の考えをまとめた案を、検討材料の1つとして活用するものです。

～各案評価まとめ～

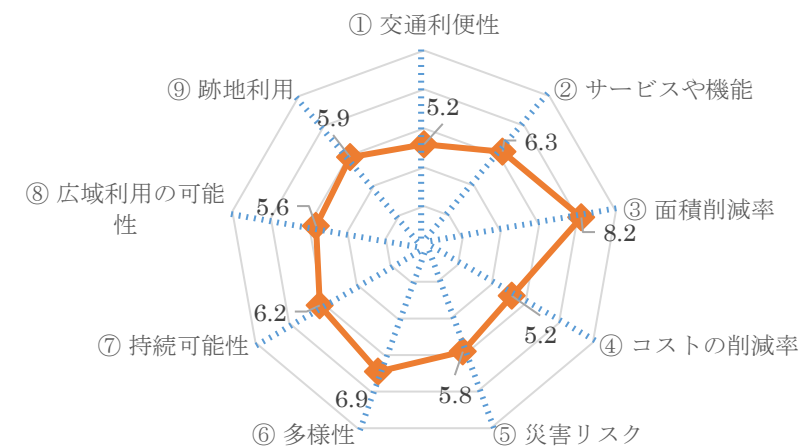
【ツブブロック A案】
緒川小学校+北部中学校+
緒川コミュニティセンター+緒川児童館



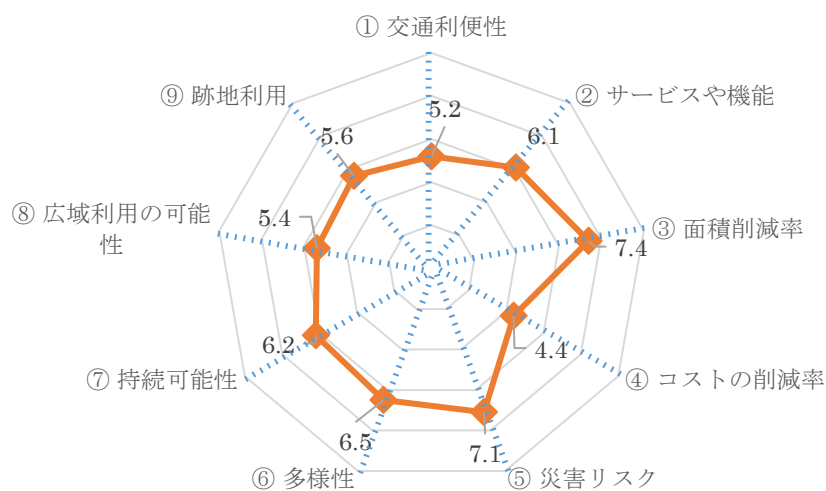
【チーム2 A案】
森岡小学校+森岡児童館+
森岡保育園+森岡西保育園



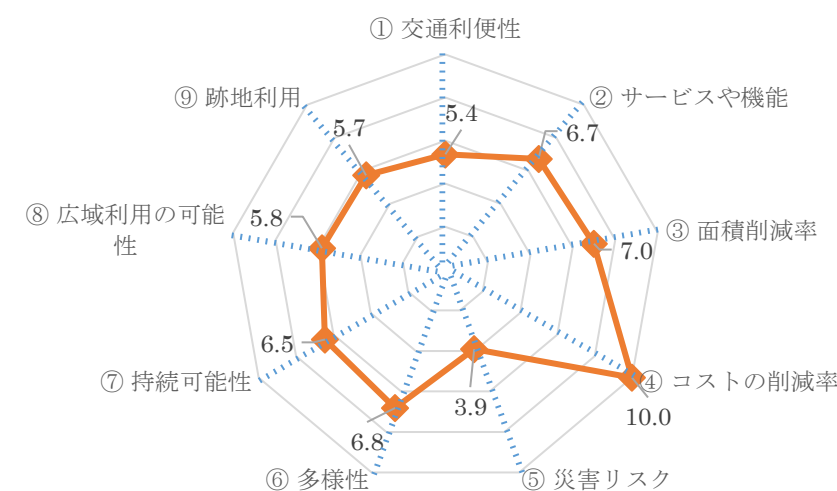
【チーム3 A案】
森岡小学校+森岡児童館+
森岡コミュニティセンター+森岡老人憩の家+
森岡保育園+森岡西保育園



【ツブブロック B案】
卯ノ里小学校+西部中学校+
卯ノ里コミュニティセンター+緒川新田児童館



【チーム3 B案】
役場庁舎+文化センター+勤労福祉会館+
福祉センター+保健センター



※今回のプロジェクトチームの目的は、職員の皆さんで、将来にわたり持続可能な施設のあり方について考え、再配置について自由な発想で意見交換を行うことです。

そのため、評価については“一番良い案を決める”ことや“順位を決める”ことはせず、レーダーチャートとしてまとめました。

